



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



東京2020パラリンピックが9月5日に閉会されました。
新型コロナウイルスの影響で選手はもちろん関係者の皆さんは相当に苦勞されたことと思います。
161の国・地域と難民選手団を合わせた参加選手は史上最大規模ということです。
さまざまな障害を抱えたパラアスリートの活躍は、多くの感動だけではなく、違いを認め合う多様性と共生の意義を伝えていただいた大会でした。

地域連携ネットワーク法人会員紹介

株式会社アクアス(鳥羽市/就労支援事業所コラボ) 責任者 浦田実佳 様

パラリンピックは終わっても、私たちの周辺では、日々の暮らしの中で頑張っている人たちがたくさんいます!



地域未来構想の実現のため、この投稿を自治体へのメッセージとして、見ていただきたいと思います。

就労支援とは、障がいや疾患、年齢などの理由により働くことに困難がある人を対象に、就職し働き続けていく過程を支援する制度のことです。

そして、障がい者の就労活動を行う事業所は、主に就労継続支援 B 型・就労継続支援 A 型・就労移行支援事業所があります。

いずれにせよ、こうした事業活動は、民間だけでは限界があり、自治体のバックアップがあってこそです。

私たちは就労支援事業所「コラボ」を設立して4年を迎えました。ここは、最大2年間という期間の中で、障がいを持って見える方の「就職したい」「働きたい」という思いに対して、安心して就労し、充実した生活を送れるように必要な技能や体験を提供し、自信を持って継続就労ができるように、また地域の企業から依頼いただいた仕事に就くことで社会に必要な責任感やコミュニケーション能力が伸ばせるよう、支援を行っています。



これまでに何人かの方を就労に繋げることができましたが、これは、企業の方々から職場体験の場をいただき、障がいを持った人たちに理解をしていただいた結果だと思っています。

おかげさまで現在もこの人達の支援を行い、みなさんは働き続けています。

しかし就労に繋げるまで、本人達の「望む仕事」や、「企業で働く」ことについては、いろいろな難しさがある事を職員みんなが実感してきました。

障がい者本人も、ここでの訓練に馴染めなかったり、修了しても別の事業所には、行きたくない、と言い出すなど様々な方が見えました。



作業風景/DMのお仕事

今は、水産業で水福連携としてお世話になっている作業場の技法を地域の方と連携してマッチングできないか、自分たちのペースで仕事ができ、お給料をもらい、生活ができる環境をサポートしたいと思っています。

また最近、地元の旅館さんと連携し始めた事もあります。

例えば、雑紙を回収し、専門企業にトイレトーパーにしてもらっています。

鳥羽ならではの巻紙を作り、販売なども構想し、障がい者が関われる仕事の取り組みとして開始していこうと考えています。こうしたことは、一部の市町で取り組みを始めた所もあると聞いています。興味のある方は是非ご協力下さい。回収はこちらが引き取りに伺っています。

誰ひとり取り残さない社会づくりのために、これからも活動を続けていきます。

2021年度 農業ジョブトレーナー養成講座(受講料無料)のご案内

(一社)三重県障がい者就農促進協議会

協議会では、障がい者と農業経営者の双方をサポートする「農業ジョブトレーナー」の養成講座への参加を募集しています。

全8講座中、第1講座から第6講座はリモート、第7講座の農業体験実習と第8講座のグループワークは対面研修で10月5日の開催予定です。<申込締切日は9月30日>

申込先 URL/<https://tinyurl.com/2ayd5982> メール/mieshuno@gmail.com

朝日町から「PEEK-A-BAMBOO! あさひ竹プロジェクト」のご紹介

朝日町は約 6 平方キロメートルの三重県で最も面積が小さい町で、森林面積も少ないですが、竹林の割合が高いことが特徴となっており、森林面積の約25%を竹林が占めております。

この特徴を活かし、竹を地域資源として町全体で盛り上げ、竹林の荒廃を防ぐことを目的に、「PEEK-A-BAMBOO(ピークアバンブー)! あさひ竹プロジェクト」を令和2年度からスタートしました。この名称は、PEEK-A-BOO(ピークアブー)! (英語で「いないいないばあ!」)と Bamboo(バンブー)(英語で「竹」)を組み合わせた造語です。「何もない」と思われがちな朝日町にも、「竹」がある! 竹でみんなを驚かせよう! という思いが込められています。



矢野純男町長



まずは町民の皆さんに関心を持ってもらうため、竹を加工して作る灯籠、通称「竹あかり」を軸に様々な事業を展開しています。



【公式ロゴマーク】

まず1つ目は、「**おうちで作ろう、竹あかり!**」事業です。

この事業は竹あかり作製に必要な材料、工具、デザイン型紙等一式を町民に貸し出し、竹あかりづくりを体験していただく事業です。昨年度は計 45 件貸し出し、165 本の竹あかりが作製されました。今年度も 8 月中旬の時点で 33 件貸し出ししており、101 本の竹あかりが作製されています。コロナ禍でも自宅で楽しめるとして人気です。

【おうちで作ろう、竹あかり! 貸出セット】

2 つ目は「**親子で作ろう! 親子竹あかりづくりワークショップ**」事業です。

小学生の子どもとその親を対象に、親子で竹あかりづくりを体験する事業です。昨年度は町内の竹細工サークルの皆さんが講師を担当し、竹あかりを通じた世代間の交流にもつながりました。今年度も夏休み期間中に開催予定でしたが、コロナ禍により残念ながら中止となりました。



親子竹あかりづくりワークショップの昨年度の様子(今年度はコロナ禍で残念ながら中止になりました。)



【JR 朝日駅前ポケットパークでの展示】

3 つ目は「**竹あかりの展示**」事業です。

町内を通る東海道を軸としたまちづくりを目指す「朝日まちなみプラン」の一環として整備された施設等において、完成した施設を紹介するとともに、竹あかりを楽しんでいただくことを目的に開催しています。昨年度は「語らいの広場」にて、今年度は「JR 朝日駅前ポケットパーク」にて展示を行いました。

いずれも大変好評で、町民の皆さんの竹・竹林に対する意識も少しずつ高まっているように感じています。

これまで、行政主導により展開してきましたが、これからは町民の方の「竹を使って何かやりたい!」「竹林をどうにかしたい!」というような思いをくみ取り、意欲ある方々の動きを後押ししていくような展開を目指し、町民と行政が一体となった地域課題の解決につなげていきたいと思っております。PEEK-A-BAMBOO!あさひ竹プロジェクト、まだスタートしたばかりです。これからの展開にご期待下さい!

(事務局メモ)

朝日町さんは、住みこちランキング™ 2021(大東建託)で 1 位とられています。



堀川勉良様

井村屋(株)参与(環境/SDGs担当) 堀川勉良様からのご投稿!

随想~「竹に思う」

日本の国土面積は、3,780 万 ha のうち、森林面積は、2,508 万 ha あり、国土の約3分の2が森林で、そのうち竹林面積は平成24年には、約16万 ha(全森林の0.6%)となっています。

古来より竹は、日本人にとって身近な資源でありましたが、竹製品が、プラスチック製品などに代替えされ、国内における竹材、タケノコの生産は衰退していったと同時に竹林が里山を荒廃している現状にあります。

私たちが暮らす環境を次の世代につないでいくには、竹林の整備から里山保全を行うことが急務であります。

そこで私たちも、タケノコの商品への活用、伐採された竹からの製品(ストロー、フォーク、ナイフ、歯ブラシ、スティック等)を開発することで、里山保全を推進していきたいと考えています。

朝日町さんの取り組みは、正に SDGs に叶った先進的な活動であり、産・官・学が一体となって解決すべき課題だと思えます。

桑名市さんも昨年、建設資材商社と連携協定を結び竹建材の開発を計画されていますし、市内で竹林整備の活動を続けている NPO 法人とも連携されています。また四日市市の NPO 法人は地元大学と竹林整備を進めようとしています。

松阪市美濃田町でも竹林整備を行い、京都嵐山嵯峨野の竹林の道にも負けない散歩道を実現されました。

やはり、私たちの暮らす環境を守り、時代につなげていくのは、住民のみなさんの力です。

その住民の力を最大限に引き出すのは、地元企業や行政の役割で、まさに SDGs の第17ゴール/パートナーシップではないでしょうか。



竹製品(見本)